

TOSHIN Hearing NEWS

2016年3月発行

新オレンジプランに認知症の危険因子として難聴が記載された！

新オレンジプランは7つの柱に沿って施策を総合的に推進するとされており、その内容は、1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進 2. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供 3. 若年性認知症施策の強化 4. 認知症の人の介護者への支援 5. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進 6. 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進 7. 認知症の人やその家族の視点の重視、である。

7つの柱である「2. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」の基本的考え方は、「早期診断・早期対応を軸とする循環型の仕組みを構築することで、本人主体の医療・介護等を基本に据えて医療・介護等が有機的に連携し、

発症予防 ⇒ 発症初期 ⇒ 急性増悪時 ⇒ 中期 ⇒ 人生の最終段階 という認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく、そのときの容態にもっともふさわしい場所で提供される仕組みを実現する」と記載されています。

発症予防の推進

認知症の危険因子	加齢、遺伝性のもの、高血圧、糖尿病、喫煙、頭部外傷、 難聴 等
認知症の防御因子	運動、食事、余暇活動、社会的参加、認知訓練、活発な精神活動 等

目次

- 1 新オレンジプラン策定
- 2 難聴の程度分類
- 3 日本国内補聴器出荷台数
- 4 リオン株式会社ニュースリリース
- 5 知っておきたい3つの制度

難聴が認知症発症の危険因子とされたこと、また認知症発症後のリハビリテーションや周囲とのコミュニケーションを円滑に図るためのツールとして、補聴器装用の重要性は高まりました。

われわれ認定補聴器技能者が果たす役割はこれまでよりも重要なものになったと感じております。医療機関を含む関係各所との連携を図り、少しでも認知症でお困りになられている方と、そのご家族のお力になりたいと考えております。

リオン株式会社が

2015年「心に残った音」を調査報告

リオンでは音を科学する企業として、「心に残った音」について毎年調査しており、2015年の結果が発表された。

第1位は、

「ラグビーWカップにおける日本代表

選手の歓声の雄たけびや拍手・歓声」

2015年9月イングランドで開催されたラグビーW杯において躍動し24年ぶりとなる歴史的勝利を飾ったラグビー日本代表チーム。その活躍に日本中で歓声が上がった！

第2位

「大型台風や豪雨の暴風雨の音」

第3位、

「安保法案における国会の喧騒・怒号」

第4位、

「国会前デモのシュプレヒコール」

第5位、

「連日のノーベル賞受賞者に

送られた拍手」

第6位、

「大物芸能人の結婚報道に

対する女性の悲鳴」

日本聴覚医学会難聴対策委員会

難聴対策委員会報告 - 難聴(聴覚障害)の程度分類について -

難聴の程度分類

各程度に該当する平均聴力レベルの範囲 各程度の範囲については、前委員会での提案(下記)が根拠も妥当で適切と考える。

軽度難聴 mild hearing loss (impairment)

25 dB 以上 40dB 未満

小さな声や騒音下での会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する。会議などでの聞き取り改善目的では、補聴器の適応となることもある。

中等度難聴 moderate hearing loss (impairment)

40 dB 以上 70dB 未満

普通の大きさの声の会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する。補聴器の良い適応となる。

高度難聴 severe hearing loss (impairment)

70 dB 以上 90dB 未満

非常に大きい声か補聴器を用いないと会話が聞こえない。しかし、聞こえても聞き取りには限界がある。

重度難聴 profound hearing loss (impairment)

90 dB 以上

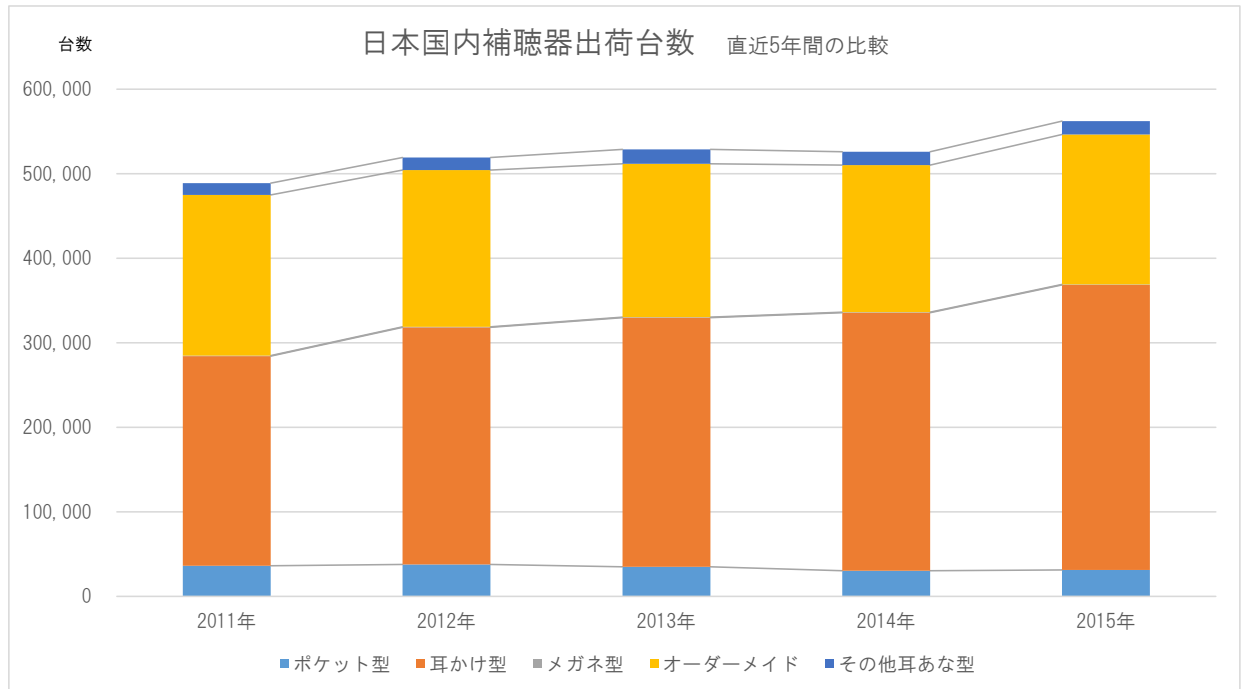
補聴器でも、聞き取れないことが多い。人工内耳の装用が考慮される。

日本国内補聴器出荷台数

一般社団法人日本補聴器工業会が2015年の補聴器出荷台数(年単位・1月～12月)を発表しました

前年比 106.9%の 56 万台を超え過去最高

耳かけ型が依然高い伸びを示しており、耳かけ型全体の構成比は 60%となり、耳あな型の構成比は 34.4%となった。出荷台数大幅増加の主な原因は、1. 増税後の消費マインドの回復 2. 補聴器に対する重要性認識の高まり(新オレンジプラン) 3. 新製品の発売 4. RIC タイプのヒット 5. 両耳装用率の向上 6. 補聴器取扱店の増加(大手メガネチェーン店の進出) 7. インターネットによる情報取得 8. 適切な補聴器供給システムの進展 (日本補聴器工業会の見解)



ベトナム国立バックマイ病院とリオン株式会社が覚書を締結

ベトナム国内には、約 450 万人の難聴者がいると推定されており、補聴器の普及はある程度進んでいますが、正確な聴覚検査によるフィッティングはあまり普及していないのが現状です。補聴器を選定するために、聴力の測定や言葉の聞き取り測定が大切であり、そのためにはオーディオメータなど聴覚検査機器が必要となります。

このようなベトナム国内の状況から国立バックマイ病院が 2016 年 1 月に開設する予定の聴覚検査センターと難聴者サポートルームに、リオンのオーディオメータなど聴覚検査機器を提供し、ベトナム国内における難聴者救済を支援することとなりました。リオンのオーディオメータなど聴覚検査機器を提供するとともに、その取扱いに関する指導を行います。



補聴器購入の際に知っておきたい3つの制度【2/3】

1. 医療費控除
2. 障害者総合支援法
3. 市区町村の独自制度

2. 障害者総合支援法

補装具費支給制度であり、お住まいの市区町村が補聴器などの補装具にかかる補装具費を支給する制度です。

聴覚障害等級に該当される方が補装具費支給の対象となりますので、全ての方が対象になる訳ではありません。

※詳細は、お住まいの市区町村役場: 障害福祉課でご確認ください。

TOSHIN Hearing NEWS 発行元

東神実業株式会社
トoshin補聴器センター

本社 : 〒550-0002 大阪市西区西本町2-4-7

TEL : 06(6531)2541 FAX : 06(6531)3398

URL : <http://www.toshin-ha.co.jp/>